H27年度本校の全国学力・学習状況調査の結果について

H27.10.20
山梨大学教育人間科学部附属中学校

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月２１日（火）に全国の小中学校で実施され，本校でも，３年生１５０名が参加しました。調査内容は，大きく①教科に関する問題（国語・数学・理科）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ，国語・数学は，Ａ；主として「知識」に関する問題と，Ｂ；主として「活用」に関する問題があります。

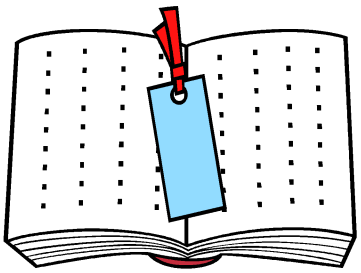
この調査は，本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより，今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

去る８月２６日に文部科学省から本校の調査結果が送られてきました。本校では，桐龍祭や新人戦などの行事，教育実習への取組などと並行して調査結果の分析を行ってきました。各教科と質問紙調査に関する分析結果がまとまりましたので，その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに，本校のホームページにも掲載していきたいと思います。

なお，調査に参加しました３年生一人ひとりには，後日個人票を配付します。自分の結果を確認し，個人的にも今後の学習に役立ててください。よろしくお願いします。

１　本校の状況（全国との比較）

本校の全体的な傾向は，国語Ａ，国語Ｂ，数学Ａ，数学Ｂ，理科のすべてにおいて平均正答率が極めて高く，良好な結果である。また，各自の正答率に目を向けても，散らばり方が小さい。国語・数学ともＡ問題に比べてＢ問題の平均正答率が若干低い傾向もこれまでと同様であるが，全国と比べるとその差は小さい。本校としても，今後平均正答率を下げることなく，この差をより小さくしていけるように，活用する力の育成に関して，いっそう力を入れて指導していきたい。



本校の各調査結果を比較すると，次のように言える。国語では，Ａ問題で，全国の平均正答率との差が他の４つの問題ほどは大きくない。これは，本校の平均正答率もかなり高いが，全国の平均正答率も同様に他の問題と比べて高いことが原因であろう。数学では，Ａ問題で，個々の正答率の散らばり具合がやや大きい。これは，昨年度同様の結果であり，散らばりを小さくできれば，Ａ問題の平均正答率をさらに高くできる可能性があるということでもある。日常生活にかかわる課題を取り上げて行っている教科研究を，今後も継続していくことで，活用する力の育成とともに，高い正答率を維持しながら，各自の正答率の散らばり具合を小さくすることが可能ではないかと考える。理科については，３年ぶりの実施であるため分析のための資料は少ない。しかし，実験を中心に，興味関心が高まるような工夫を取り入れて授業を継続してきたことが，好結果につながっている。

［参考］　国公私立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ	理科
全国平均正答率	７５．８	６５．８	６４．４	４１．６	５３．０
全県平均正答率	７６．１	６６．２	６３．６	４１．２	５４．１

２　本校の主な成果と課題

国　語

Ａ　主として「知識」に関する問題

○　設問全体をとおして無解答率は極めて低い。これは，知識に関する基礎・基本の理解の高さと問題を解決しようという積極的な姿勢や学習への意欲の高さの表れといえる。

○　設問全体をとおして，全国平均と比べて，本校における正答率は高いものとなっている。国語に関する基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていると考えられる。

国語科では，指導目標の明確化や振り返りを位置づけて，生徒の実態や課題に沿った授業を構想してきている成果だと考えられる。

△　全国的に正答率が低い傾向にある問題においては、本校でも同様に、他の問題に比べ、正答率が低くなっている。
　例えば、文脈に即して語句の意味をとらえる問題や手紙の後付けを書き直す問題である。実生活や社会生活に即した場面での理解が必要だと感じる。

Ｂ　主として「活用」に関する問題

○　設問全体をとおして無解答率は，記述式も含めて極めて低い。これは，既習事項を活用するための基礎・基本の理解と問題を解決しようという積極的な学習への意欲の高さの表れといえる。

○　全国的な傾向において課題とされている，「話すこと」に関する設問の「目的や状況に応じて，資料や機器などを効果的に活用して話すこと」については，本校では高い正答率となっている。日常的に自分の考えを他者に発表する機会を授業中に設定している成果だと考えられる。

△　全国的な傾向において課題とされている「読むこと」に関する設問の「複数の資料から適切な情報を読み取りを得て，自分の考えを書くこと」については，本校においても他の設問に比べて低い正答率となっている。解答類型を見てみると，適切な情報を得て，それをもとに将来の社会を予想することはできているが，その社会に自分がどのように関わっていきたいかという自分の考えを書くことができていない生徒がいる。
　また，「文章の構成や展開などを踏まえ，根拠を明確にして自分の考えをまとめる」設問も同様に，低い正答率となっている。この設問では，自分の考えを書くことはできているが，考えを支える根拠が書くことができていない，もしくは考えと根拠をつなげる理由を書くことができていない生徒がいる。

数　学

Ａ　主として「知識」に関する問題

○　設問全体をとおして無解答率が極めて低く，内容に対する理解と，何とかして問題を解決しようという意欲が，ともに高いことがうかがえる。

○　全国的な傾向において課題とされた，具体的な事象における数量の関係をとらえ連立二元一次方程式をつくること，多数回の試行の結果から得られる確率の意味の理解については，本校では相当数の生徒ができている。

△　全国的な傾向において課題とされた，証明の必要性と意味の理解について，数量の関係を文字式に表すことについては，全国ほどではないが，本校も他の設問に比べてやや正答率が低い。

Ｂ　主として「活用」に関する問題

○　全国的な傾向において課題とされた，図形を関数の視点でとらえ構想を立てて説明すること，与えられた式を基に2つの数量関係を判断し数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明することについては，本校では多くの生徒が説明できている。

△　全国的な傾向において特に課題とされた，資料の傾向を的確にとらえ数学的な表現を用いて判断の理由を説明すること，図形の性質を用いて問題解決の方法を説明することについては，全国ほどではないが，本校も他の設問に比べてやや正答率が低い。

理　科

○　設問全体を通して正答率が高く，特に物質や生物の名称を答える問題についての正答率は極めて高い。また，選択式・短答式による正答率の差はなく，無回答率も低い。これらのことから基礎的・基本的な知識が身に付いているといえる。

○　濃度５％の塩化ナトリウム水溶液１００ｇをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める設問では，全国では課題としてあげられているが，本校ではおおむね良好であるといえる。

△　天気図から風向を読み取り，その風向を示している風向計を選ぶことについては，全国平均を上回るものの，他の設問と比べて正答率が低かった。風向計の原理や仕組みをとらえて風向を観測する技能が身についていないと考えられる。

○　すべての問題について，正答率が全国平均を上回り，無回答率も低い。基礎的・基本的な知識が定着しており，それを活用して課題を解決しようとする意欲があると言える。

△　課題を解決するために仮説を設定し，検証する実験を計画する問題では，他の設問と比べて正答率が低かった。実験に関わる要因を明確に見いだすことができていないことが原因と考えられる。

△　他者の考えを検討して，誤っている点を改善する問題では，全国平均は上回っているが，他の設問に比べて正答率は低かった。他分野で学習した知識を関連づけることができていないと考えられる。

３　各教科における主な改善点

国　語

＊　漢字の読み書きは日頃からの家庭学習習慣も含めて身につく力である。継続して学習する必要がある。

＊　多様な情報に触れながら,問題意識をもったり,新たな気付きを得たりするためには，自分の体験と結びつけて考える必要がある。国語の授業だけでなく,日常的な取組として「FUZOKUワークシート」などを活用しながら,自分の周りに目を向ける機会をもたせたい。

＊　授業において,身に付けた知識・技能を活用する場面を設定する必要がある。その際に，目的意識をもたせるためにも，生徒の実生活，社会生活に即した場面を設定していきたい。

＊　これまでの交流活動などを設定して，自分の考えを表現する機会は設けているが、「主張・根拠・理由」を意識して自分の考えを表現するようにさせたい。また,「主張と根拠の整合性はどうか」「もっと他によい事例はないか」などの観点をもちながら他者の考えを聞いたり，読んだりする指導を行う。

数　学

＊　証明の必要性と意味の理解を深められるようにするために，帰納的な方法（個々の具体的な事例から一般に通用するような原理・法則などを導き出す方法）による説明と比較しながら，演繹的な推論（一般的な理論によって、特殊なものを推論し、説明する方法）による説明の役割を確認する活動の機会を増やす。

＊　数量関係を文字式で表す活動では。数量の関係をとらえやすくするために，図や表を利用して表す活動を取り入れる。

＊　資料の傾向をとらえ判断の理由を説明することができるようにするために，グラフの形から分布の特徴を視覚的にとらえたり，複数の代表値を求めて比較したりしながら，数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実させる。

＊　図形の性質を用いて問題解決の方法を説明することができるようにするために，問題解決の過程を振り返りながら数学的な表現を用いて説明する活動を充実させる。

理　科

＊　生徒でもつくることができる簡易な実験装置（手作り風向計など）を作成し，授業で利用することで学習内容を実感させながら理解させていく。

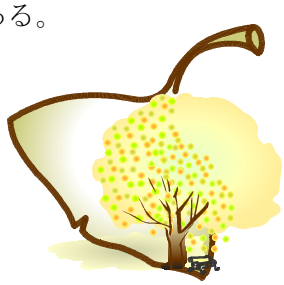
＊　領域を横断した総合的な見方や考え方ができるようにしていくために，いくつかの領域を関連づけ，多面的，総合的に思考する学習場面を設定する。

＊　仮説を設定し，検証する実験を計画することができるようになるために，まず自然の事物・事象の原因となる要因を見いださせる学習場面を設定する。そこから仮説を立てていくことで課題の解決につながる実験を行えるようにする。

４　質問紙調査の主な特徴

質問紙調査は，学校や家での勉強や生活の様子について調査したものである。全国における，学校や家庭での学習や生活の状況と全国学力・学習状況調査の国語と数学と理科の結果との関係については，国立教育政策研究所のＨＰに掲載されている「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書・調査結果資料」のとおりである。

本校生徒の生活習慣や家庭学習などの主な状況は以下のとおりである。



生活習慣について

＊　「毎日朝食を食べている」と回答した生徒の割合（%）は，全国平均に比べかなり高い。

＊　「普段（月曜～金曜，以下同じ）１日あたりのテレビなどを視聴する時間」については，１時間以上，２時間未満と回答した生徒の割合が高い。

＊　「普段１日あたりのテレビゲームなどをする時間」については，１時間未満と回答した生徒の割合がかなり高い。

＊　「普段１日あたりの携帯電話等での通話，インターネット，メールをする時間」については，30分未満と回答した生徒の割合が最も多いものの，４時間以上，３時間以上と回答した生徒も若干いる。

自分や友達，学級について

＊　「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は，全国平均に比べかなり高い。
＊　「自分には，よいところがあると思う」と回答した生徒の割合は，全国平均に比べ極めて高い。
＊　「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した生徒の割合は，全国平均と比べかなり高く，「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した生徒の割合は，全国平均に比べ極めて高い。
＊　「学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがある」については，当てはまると回答した生徒の割合が全国平均に比べ極めて高い。
＊　「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は，全国平均を少し下回っている。

学習や読書について

＊　「普段１日の学習時間」については，２時間以上と回答した生徒の割合が高い。そのうち３時間以上も２割以上いる。また，「土曜日曜など，休日の１日あたりの家庭学習時間」も，３時間以上が５割以上であり，全国と比較して全般的に長時間，学習に取り組んでいる。
＊　「普段の１日の読書時間」については，10分以上30分未満の生徒の割合が高く，読書時間が確保されていない現状がある。
＊　「国語の勉強は好きか」，「数学の勉強は好きか」，「理科の勉強は好きか」の割合は，全国平均に比べ極めて高い。

地域や社会への関心について

＊　「地域の行事への参加」については，全国平均に比べかなり高い。
＊　「地域や社会でおこっている問題や出来事に関心があるか」については，関心があると回答した生徒の割合は全国平均に比べ極めて高い。また，「新聞を読む」「ニュース番組などをみる」生徒の割合もかなり高い。

５　質問紙調査からの改善点

＊　将来の夢や希望を持っていない生徒が「どちらかといえば」を含め４人に１人程度いる。今後さらにキャリア教育を充実させ，より一層推進していく必要がある。
＊　携帯電話やスマートフォン，インターネットを毎日使っている生徒が８割を超えている。使用方法や情報モラルをより一層指導していく必要がある。
＊　「読書が好き」と回答した生徒の割合はかなり高い一方で，１日の読書時間が１時間未満の割合が高いので，日常的な読書習慣を身に付けさせたい。

※　ご家庭へのお願い

　調査結果から，本校の生徒は落ち着いた生活環境の中で，自分や友達を大切にし，何事にも前向きに努力している様子が分かります。９割近くの生徒が，楽しく学校生活を送っていると答えています。
　学習への意欲，取組内容や時間も全国平均を大きく上回っています。新聞を読み，ニュース番組を見るなど，社会に目を向け関心を寄せている生徒も大勢います。しかし，４人に１人はまだ将来の夢や希望を持てていません。様々な話や体験などを通して，将来の夢や希望を考えていく機会をつくっていただきたいと思います。
　読書については，読書が好きな生徒の割合が７割近く，月に数回図書館に行く生徒の割合が６割を超えています。しかし，１日の読書時間が３０分より少ない生徒が５割近くおり，全体的に読書時間は少ないと言えます。塾や習い事，家庭学習などに時間を取られるからかもしれませんが，日常的な読書習慣を身に付けさせたいものです。
　自分の携帯電話等の所有率が全国平均より高く，携帯電話やスマートフォン，インターネットを毎日使っている生徒が大勢います。メールやＳＮＳによるトラブルも心配されますので，ご家庭でも使用ルールをつくるなど，ご協力をお願いいたします。